

添付資料

在宅学習システムに関するアンケート調査

この調査は、財団法人視聴覚コンサルタントセンター（AVCC）が職業能力開発大学の委託により実施するものです。本調査は、統計以外の目的に使用することは絶対にありませんので事実をありのままに記入して下さい。業務でご多用のことと存じますが、アンケートにご協力いただき、平成9年1月20日までに返信用封筒（切手不要）にてご返送くださいますようお願い申し上げます。

1.調査目的

現在、公共職業能力開発施設に来る時間のない方や自分の好きな時間に手軽に自己啓発（ここでいう自己啓発とは、現在、又は今後仕事に直接的に役立つ知識を習得すること、つまり、業務的能力開発のことをいいます）を行いたいという方のため仕事にすぐ役立つ知識・技能を自宅で、自分の好きな時間に勉強できる”在宅学習システム”の構築を検討しております。

今回のアンケートは、在宅学習システムに係るニーズ把握及びよりよいシステム環境作りに役立つためのもので、これ以外の目的に使用することは絶対にありません。

なお、現在描いている在宅学習システムの概念は以下のとおりです。

2.在宅学習システムの概念（別紙もご参照ください）

- ① 利用者が自分の好きな時間に学習することから、自学自習が基本となる。
ただし、ネットワークを活用した擬似スクーリング（面接指導）は行う。
- ② 個人主導の能力開発を自宅で行うとなると、公共職業能力開発施設等には設置されている設備が使用できないため、例えば、CAI（コンピュータとの対話形式による学習。ここでは対象が在職労働者であるため、従来のCAIより個人にきめこまやかに対応できるよう強化されたものとなる。）やVR（バーチャルリアリティー＝仮想現実体験）技術を駆使した教材により、実機の取り扱いをある程度習熟できるなど、本人のやる気次第で、技術革新による機器変更、流れ作業変更等に柔軟に対応できるものであること。
- ③ ②のとおり、最新技術を駆使することから、教材は高価になることが予想されるため、これを販売するのではなく、データベースに登録された教材情報をネットワークを通して提供するシステムを構築するほうが望ましいと考えていること。
- ④ 現在既にある、通信制訓練や通信教育と異なり、これまで自宅においては学び得なかったものを学べる、つまり、上記の最新技術を駆使することにより、学科のみならず実技（いわゆるカンと技量）に近い領域まで学べるのが、構築すべき在宅学習システムのテーマであると考えていること。
- ⑤ システムとしては、
 - イ 中央データベースに教材情報を登録すること。
 - ロ 教材情報のダウンロードとともに、一日一度の一括対応による擬似スクーリング機能や修了証明機能を持たせるため、双方向にアクセスできる機能を持つこと。
 - ハ 利用者は、モデムと端末があれば加入できる体制をとること。もちろんレンタルも可能とすること。
 - ニ 場合によっては、全国各家庭への普及著しいコンシューママシンを活用することも検討すること。

調 査 票

1.あなた自身に関する事項（平成8年12月1日現在でお答え下さい）

□性 別 1.男 2.女

□年 齢 1.22才未満 2.22～29才 3.30～39才 4.40～49才 5.50才以上

□現住所（ ）都・道・府・県

□通勤時間（総時間数）

1.30分以内 2.1時間以内 3.1時間30分以内 4.2時間未満
5.2時間以上

□職 種 1.管理・監督 2.専門・技術 3.事務 4.販売・営業 5.サービス 6.運輸
7.技能工・生産工程従事者

□現在の職種の経験年数

1.1年未満 2.1年以上～3年未満 3.3年以上～5年未満 4.5年以上～10年未満
5.10年以上

□現在の会社の勤続年数

1.1年未満 2.1年以上～3年未満 3.3年以上～5年未満 4.5年以上～10年未満
5.10年以上～20年未満 6.20年以上～30年未満 7.30年以上

□現在の会社の業種（主たる業種に◎（一つのみ）、副次的業種には○印（いくつでも可）を付けてください。）

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 建設業 | 2. 食料品、たばこ製造業 |
| 3. 繊維工業・衣類製造業 | 4. パルプ・紙・紙加工品製造業 |
| 5. 出版・印刷業 | 6. 木材・木製品 |
| 7. 化学工業・石油・プラスチック製品製造業 | 8. ゴム・皮革製品製造業 |
| 9. 窯業・土石製品製造業 | 10. 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業 |
| 11. 一般機械製造業 | 12. 電気機器製造業 |
| 13. 輸送用機器製造業 | 14. 精密機器（光学・計量・時計等）製造業 |
| 15. その他製造業 | 16. 電気・ガス・熱供給・水道供給業 |
| 17. 運輸・通信業 | 18. 卸売・小売業、飲食店 |
| 19. 金融・保険業、不動産業 | 20. サービス業（対事業所サービス） |
| 21. サービス業（対個人サービス） | 22. その他 |

□勤務先の会社全体の従業員数

1.5人未満 2.5～30人未満 3.30～100人未満 4.100～300人未満
5.300～500人未満 6.500～1,000人未満 7.1,000～3,000人未満 8.3,000人以上

2. 自己啓発の必要性について

(1) 今まで、会社からの指示や紹介などで行った、もしくは現在行っておられる能力開発の実施状況(過去3年間に限る)についてお答えください。(ない場合はQ8へ)

Q1. 講座の方式は次のうちどれですか(いくつでも可)

1. 社外の短期間セミナー
2. 社内研修
3. 職業能力開発施設等における職業訓練
4. 専門校(英会話スクールを含む)
5. 通信教育(労働省の通信制訓練を含む)
6. テレビ・ラジオ講座
7. その他()

Q2. 受講講座の名称を記入して下さい
(業者名は不要)

[]

Q3. その講座の期間はどれくらいの長さですか

[]

Q4. 講座の内容は次のうちどれですか(いくつでも可)

1. 語学関連の講座
2. OA機器の習得
3. FA機器の習得
4. 管理・監督者が必要とする能力を習得するための講座
5. 資格取得を目的とした講座
6. 社会人としての心得的な講座
7. 現在の業務を遂行する上で直接役立つ業務沿革的講座
8. その他()

Q5. あなた自身が期待した効果は何ですか(いくつでも可)

1. 基礎的な知識、技能、技術を習得する
2. より高度な知識や技能、技術の導入に対処できるようになる
3. 新しい知識や技能、技術に対処できるようになる
4. 国際化への対応
5. 資格の取得
6. 職種転換に対応するため
7. その他()

※ここでいう「技能」と「技術」について

ここでいう「技能」とは、主として個人の経験を通して習得した、個別の事項を処理することができる能力、「技術」とは、学術上の原理、法則、理論等を応用して、専門的な事項を処理することができる能力をいいます。

- Q6. 仕事への反映度はいかがですか。
1. 概して大いに役立った (→Q8へ)
 2. 概して役立った所もある (→Q7へ)
 3. 概してどちらともいえない (↓Q7へ その後Q8へ)
 4. 概してあまり役に立たなかった (→Q8へ)
 5. 概してほとんど役に立たなかった (→Q8へ)

- Q7. Q6で「3.概してどちらとも言えない」を選択された方へ
 どうしてどちらとも言えないのですか。
1. 仕事に直接は反映されなかったものの、間接的な分野において大いに活用できた
 2. 内容が自分が既に知っていることばかりだった
 3. 内容が自分には難しすぎてわかりにくかった
 4. 自分は大いに役立ったと思うが周りの反応は全く違うものだった
 5. 後で役立つとは思いますが今はまだ分からない
 6. その他 ()

(2) 今まで、自分で必要性を感じて自発的に行った、もしくは現在行っておられる自己啓発の実施状況
 (過去3年間に限る) についてお答え下さい。(ない場合はQ16へ)

- Q8. 講座の方式は次のうちどれですか (いくつでも可)
1. 社外の短期間セミナー
 2. 職業能力開発施設等における職業訓練
 3. 専門校 (英会話スクールを含む)
 4. 通信教育 (労働省の通信制訓練を含む)
 5. テレビ・ラジオ講座
 6. その他 ()

Q9. 受講講座の名称を記入して下さい
 (業者名は不要)

[]

Q10. その講座の期間はどれくらいの長さですか

[]

[]

[]

- Q11. 講座の内容は次のうちどれですか (いくつでも可)
1. 語学関連の講座
 2. OA機器の習得
 3. FA機器の習得
 4. 管理・監督者が必要とする能力を習得するための講座
 5. 資格取得を目的とした講座
 6. 社会人としての心得的な講座
 7. 現在の業務を遂行する上で直接役立つ業務沿革的講座
 8. その他 ()

Q12. あなた自身が期待した効果は何ですか（いくつでも可）

1. 基礎的な知識、技能、技術を習得する
2. より高度な知識や技能、技術に対処できるようになる
3. 新しい知識や技能、技術の導入に対処できるようになる
4. 国際化への対応
5. 資格の取得
6. 職種転換に対応するため
7. その他（)

Q13. 仕事への反映度はいかがですか

1. 概して大いに役立った（→Q15へ）
2. 概して役立った所もある（→Q15へ）
3. 概してどちらともいえない（↓Q14へ その後Q15へ）
4. 概してあまり役に立たなかった（→Q15へ）
5. 概してほとんど役に立たなかった（→Q15へ）

Q14. Q13で「3.概してどちらともいえない」を選択された方へ

どうしてどちらとも言えないのですか。

1. 仕事に直接は反映されなかったものの、間接的な分野において大いに活用できた
2. 内容が自分が予想したより物足りなかった
3. 内容が親切丁寧に話されてなかった
4. ある程度役立ったがパンフレット等から受けた印象と実際は食い違っていた
5. 後で役立つとは思いますが今はまだ分からない
6. その他（)

Q15. 自己啓発のために休暇をとられたことがありますか。

1. ある
2. ない

Q16. 今後、自己啓発を行うにあたり、今はないが、あると便利な講座は何ですか。

1. 現在の自分の業務につき、直接的に、知識、技能、技術がアップする内容
具体的に（)
2. 将来、管理・監督者になった時のための知識がアップする内容
具体的に（)
3. 将来のために、別業務の知識、技能、技術がアップする内容
具体的に（)
4. 自分の内容を磨く内容
具体的に（)
5. その他
具体的に（)

3. 在宅学習システムの必要性について

Q17. 今回、別紙に示すような在宅学習システムはあなたの求める自己啓発のイメージに適合すると思いますか。

1. 役立つ (↓Q18へ)
2. 少しは役立つ (↓Q18へ)
3. 有効性を感じない (→Q19へ)

Q18. 「役立つ」「少しは役立つ」と答えた理由は何ですか。(いくつでも可)

1. 自宅で学習できれば自分自身の仕事の調整が不要になりそうだから
2. 職場の同僚に仕事の負担をかけないで済みそうだから
3. 誰にも知られずに勉強できそうだから
4. 会場までの往復交通時間が不要になるから
5. いつでも自分の都合の良い時間に勉強ができるから
6. 自分の理解度にあわせて勉強ができそうだから
7. 自分にとって必要なところだけ選択して勉強できそうだから
8. その他 ()

Q19. あなたが「有効性を感じない」と答えた主な理由はなんですか。(いくつでも可)

1. 直接講師に接した方がすぐ質問できるなど、よく理解できるような気がするから
2. 講師がいないと、途中でやめてしまうことがあるような気がするから
3. 仲間が身近にいて一緒に勉強した方がハリアイがあるから
4. 家では学習に集中できないから
5. 家には学習するスペースがないから
6. その他 ()

Q20. このシステムを利用して学習したい分野は次のうちどれですか(いくつでも可)

1. 語学関連の講座
2. OA機器の習得
3. FA機器の習得
4. 管理・監督者が必要とする能力を習得するための講座
5. 資格取得を目的とした講座
6. 社会人としての心得的な講座
7. 現在の業務を遂行する上で直接役立つ業務沿革的講座
8. その他 ()

Q21. あなたは、自宅にマルチメディアパソコン(CD-ROMドライブ、通信機能等装備)をもちますか。

1. 自分専用のもをもちている
2. 家族と共用のもをもちている
3. もっていない

Q22. あなたはパソコン等のOA機器の操作にどのくらい習熟していますか。(一つ選択)

1. パソコン操作は全然できない
2. パソコンを起動することはできる
3. ワープロ、表計算、データベースのうちいずれか一つができる
4. ワープロ、表計算、データベースが総合的に処理できる
5. パソコン購入後、セットアップができる
6. パソコン通信、LAN構築、データベースの構築、インターネットなどいずれか一つについて経験がある。

Q23. 在宅学習システムの利用に必要なパソコンの購入費又は借入費や回線接続費などの初期投資はいくらぐらいまでなら支出してもよいと思いますか。(一つ選択)

1. 1万円未満
2. 1万円～3万円未満
3. 3万円～5万円未満
4. 5万円～10万円未満
5. 10万円～20万円未満
6. 20万円～30万円未満
7. 30万円以上

Q24. あなたは在宅学習をするために必要な通信費、受講費(学習教材利用費等)は月額どのくらいまでなら支出してもよいと思いますか。

1. 3,000円未満
2. 3,000円以上～5,000円未満
3. 5,000円以上～10,000円未満
4. 10,000円以上～15,000円未満
5. 15,000円以上～20,000円未満
6. 20,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上

Q25. 在宅学習システムによって学習しようとする場合、一日の勉強時間はどのくらいが適当だと思いますか。

1. 30分未満
2. 30分以上～1時間未満
3. 1時間以上～2時間未満
4. 2時間以上～3時間未満

Q26. 在宅学習システムによって学習しようとする場合、その時間帯は何時位になると思いますか。

1. 午前5時から7時くらいの間
2. 午前7時から9時くらいの間
3. 上記1.2を除く午前中
4. 昼休み時間中
5. 午後1時から3時くらいの間
6. 午後3時から5時くらいの間
7. 午後5時から7時くらいの間
7. 午後7時から9時くらいの間
8. 午後9時から12時くらいの間
9. 深夜12時から2時くらいの間

Q27. 在宅学習システムの実施に関して、行政(労働省)に対してどのようなことを特に期待しますか。(主なものを二つまで選択)

1. 給付金等の金銭的援助
2. 習得した成果に対する評価制度の確立
3. 他の講座・セミナーとの連携
4. 講師・専門家等の情報提供
5. 教材の質、量の充実
6. 在宅学習システムに係わる通信基盤の充実
7. その他()

Q28. 在宅学習システムで勉強できる場所は次のうちどれを希望しますか。

1. 自宅のみが良い
2. 自宅と会社と両方でできると良い
3. 自宅と教育訓練施設でできると良い
4. ノートパソコンでどこからでもできると良い
5. その他 ()

Q29. ネットワークについて

1. インターネットを使用した方が良い
2. パソコン通信を使用した方が良い
3. 専用回線を使用した方が良い
4. 衛星通信を使用した方が良い
5. ネットワーク網を利用せず、教材販売、面接指導の通信教育方式で行うほうが良い
6. その他 ()


Q30. 教材について (内容はユーザーニーズに適合していると仮定)

1. 従来どおりの教科書のみで十分
2. 画像 (動画・静止画)、音声を重視すべきである (臨場感等)
3. 自学、自習のための機能 (CAI等) を重視すべきである
4. その他 ()

Q31. 面接指導 (スクーリング) については次のうちどれを希望しますか

1. 直接、講師のいる場所における個別指導
2. 他の受講者と一緒に集まった集合指導
3. ネットワークを利用した一対一の対話形式
4. ネットワークを利用し、他の受講者も入るグループディスカッション形式
5. ネットワークを利用し、質問、相談事項を転送すると翌日には回答が来る通信添削形式
6. その他 ()

その他諸々のご意見等ありましたらご自由にご記入下さい。



在宅学習システムのイメージとコンセプト

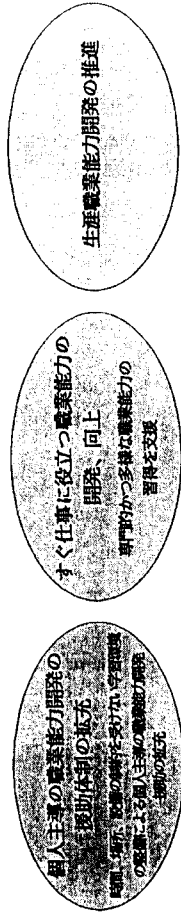
1. 趣旨

自らの職業能力の開発・向上に意欲を持つ方を対象とした自己啓発援助の環境を整備するため、マルチメディア等の最新技術を利用して、自宅や職場に居ながら任意の時間に自学自習が出来る「在宅学習システム」の構築を検討しています。マルチメディアの進展や情報通信基盤の整備等、実現に向けては今後の技術動向等を見極めなければなりません。現時点で想定される在宅学習システムの概要は右のようなものです。

2. 在宅学習システムの背景

- 社会の変化 : マルチメディア社会の到来、求める人材像の多様化、職業能力の専門化・多様化、労働者自身の自己啓発意欲の高まり
- 業務環境の変化 : フレックスタイム、テレワーク、情報通信化など就業形態の変化

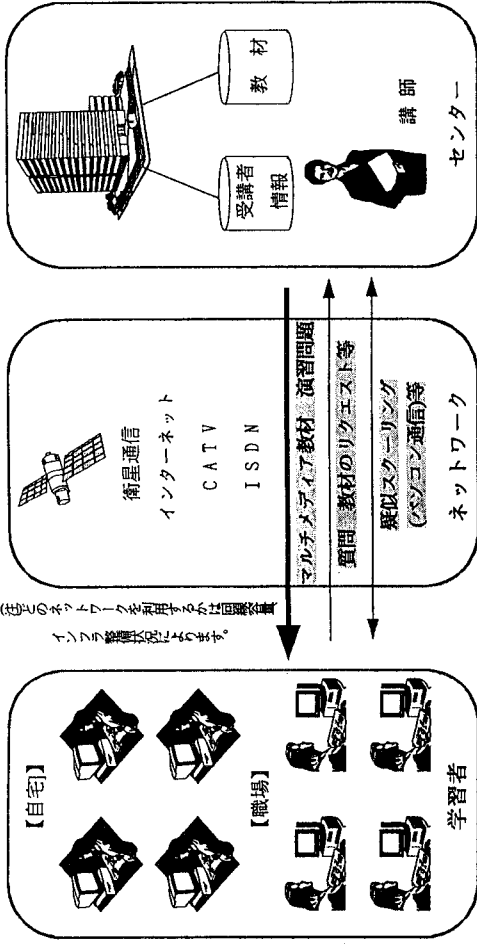
在宅学習システムの目標



3. 従来の自己啓発の方法

自己啓発は、労働者個人が自主的にその資質向上のために学習することをいいますが、これまでではテレビやラジオの教育番組を受講したり、民間の教育研修機関等が行うコースを通学や通信制により受講するケースが一般的となっています。しかし一方で、学習の意欲はあっても、時間や場所、費用等の制約により、自己啓発に取り組めない方々や手軽に自分のやり方で行うことを望む方々も多く存在します。在宅学習システムはこうした制約を解消し自己啓発への取り組みを援助するためのシステムとして構築することを目指しています。

4. 在宅学習システムのイメージとコンセプト



学習内容例

実務講座 (パソコン活用講座、CAD操作説明等)
資格取得対策講座 (技能検定試験、電気工事士等)

- 単機
パソコンとモデムがあれば加入できます。端末機器は学習期間中レンタルすることもできます。操作はマウス、専用パッドで対応し、学習したい教材の検索、選択が誰でも簡単にできます。
- インタラクティブ
コンピュータと対話しながら、自分のペースで、自分のやりたいように学習できます。
- リアル
マルチメディア(CAI, VR*)を有効利用し、個人によりきり細かくに対応した臨場感のあるリアルな学習を体験できます。
- コミュニティ
パソコン通信で講師に質問ができます。回答は翌日までに、文字、画像等必要に応じて選択されたメディアにより行われます。質問や受講者同士の情報交換等を可能にするバーチャルコミュニティに参加できます。
- ステップアップ
受講実績はセンターにおいて管理され、受講終了証等の発行や次のステップアップのためのアドバイスを行います。
*VR: バーチャルリアリティ。仮想現実。3次元仮想空間をウォークスルー(移動)する等仮想体験できます。